

2. 家畜栄養生理研究会春季集談会

日時：3月28日 於：日本大学生物資源科学部 主催：家畜栄養生理研究会（会長 木村信熙 日本獣医生命科学大学教授）

2. ヒツジへの給与飼料の相違により誘起される成長ホルモン、グレリンおよびインスリンの分泌動態およびその制御機構（東北大 高橋辰行ほか）

家畜の成長に重要な働きをするインスリンや成長ホルモンおよびその分泌を刺激するグレリンは摂取する栄養素の質や量によって分泌が修飾されることをヒツジを用いて検討した。高蛋白質飼料は血中のインスリン、グレリン濃度を上昇させ、グレリンの持つインスリン分泌抑制効果が増大した。また、第四胃にグルタミン酸、アスパラギン酸およびアルギニンを注入するとグレリン濃度が上昇し、飼料中の蛋白質含量は代謝ホルモンの分泌調節に影響することが明らかにされた。

5. 豚における筋肉内脂肪の蓄積機構に関する研究（畜草研 芦原 茜）

肥育豚に低リジン、低蛋白飼料を給与すると筋肉内脂肪を2-3%から10%に増加させることができるが発育が遅延し生産効率が低下することが知られている。豚における筋肉内脂肪蓄積機構を解明する試験を行った。遺伝的に筋肉内脂肪蓄積の高い系統の豚は増体が低く、28日齢までの哺乳期における低栄養処理は筋肉内脂肪蓄積促進、筋肉のI型コラーゲン含量増加させ、哺乳期のVtA制限は筋肉内脂肪蓄積を低減した。